

展望と主張：国土計画

グローバル化する経済と気候が激変する環境という困難のもと、国土の発展を考慮した場合、台湾は総合的な発展ビジョンを策定する必要がある。本シンクタンクは実質的な生態性や社会生活性を分析のツールとして、これまでの台湾の国土計画発展やその直面する困難について具体的な検証を加えてきた。さらに、民進党の執政経験についても同様に検証する。

まず、特徴的な生態環境、島国経済体系とグローバル経済体が高度に連動する台湾に関し、我々は次のように主張する。「地域、永続、策新」を国家発展と国土計画の核心理念とし、2大支柱を構築するべきである。

その2大支柱とは、水平的な日常生活と生産空間の再分配、垂直的な自然生態空間の保育と永続である。こうした綱領による指導のもと、我々が実質的な計画を行う場合、体系の三大特質つまり理念性、総合性、技術性を利用し、「成長管理」の政策ツールとして応用すべきである。以上のようにして、我々は新時代の国土計画と発展の新視野を打ち立てるべきと主張する。

続いて、本シンクタンクは国土計画ビジョンとして、美しい生態系の台湾の再建、都市と地方の多元的な自治体、地元に着目した生活新経済を主張する。政府は公共政策を通じ、また土地と生活空間の規範を通じ、人民の生活品質の改善を進めるとともに環境に優しい生活を実現するべきである。このため、国土計画のビジョンの上では、本シンクタンクは次のように提言する。産業の計画発展は必ず国土資源で

ある環境が許容できる度合いを優先して考慮し、産業資源を適切に配分して合理的な国土空間を生み出すべきである。実践的には、本シンクタンクは「減量」と「再生」を強調する。人民の生活空間については、積極的にいかなる再生発展の可能性あるかを模索し、撤去や破壊することが国土空間の開発使用に対する唯一の手段とするべきではない。また、政治的には、権力移譲（devolution）し、地方政府に中央政府や民衆が参加することで、地域の発展を主導することが可能になるだろう。このほか、本シンクタンクは積極的に長期的な政策計画のもと、国土空間の再計画、法規体系の統合、二極的な国土空間計画の放棄等を主張していきたい。

短期的な国土計画政策の面では、台湾の環境資源、成長管理メカニズムを通じ、異なる生態環境と生活空間の管理、公有地の有効管理、過度な首都機能集中の削減を積極的に進め、再調整を図り、貴重な台湾の国土資源を保護していく。中期的な国土計画政策の面においては、経済的な特質を利用し、地域経済の発展可能性を創造していくことになる。「環境博覧会」の開催を素地とし、地域社会の自身の環境の独自性を発見することに寄与できるだろう。長期的な国土計画においては「合理的な生活空間、整備された生態体系、総合的な生産の結合」により、台湾のこれまでの大規模な行政区画を小規模に再区画していくことで、合理的な国家資源の配置が実現するであろう。

国土の資源は国家にとって貴重な財産であり、先人たちが子孫へ残してくれたかけ

がえのない宝である。我々の祖先は困難を乗り越えて開発を行い、台湾の生態と共存共栄する知恵を生み出してきたことは、私たちの生活空間や国土の環境を見れば明らかである。新世紀に入り、グローバル経済化という荒波や、激しい気候変動という生態系の危機に直面した現在、私たちは明確な理念ときめ細やかな方法、完備された国土計画政策を持つことで、台湾が直面する国土の危機を変化させ、解決することが可能になる。また、同時にそれは執政者が避けては通れない職責でもある。台湾の人民としても、台湾の生態環境と国土資源分配が難しい生活体系を直視し、積極的に行動と主張を実行に移し、未来の執政者に対して積極的な対応を要求し、有効な解決を求めることが必要である。こうして先人が残してくれた美しい台湾を守り、育てていくことで、私たちの子孫もまたこの島を守り続けていくことに繋がるであろう。BT